

# エージェント・ヴァルをご紹介します

業界初の、安全かつ自律的なエクスプロイト検証を実現するエージェント型 AI です。

キャリアアップにつながる問いはもはや「何が脆弱か？」ではなく、「自分の環境で、今まさに何が悪用可能なのか？」です。それが確実性のギャップです。CTEM ツールは脆弱性の検出結果、理論的なスコア、攻撃経路を生成しますが、本番環境における実際の悪用可能性を証明することはできません。

一方、AI は攻撃者の手口を加速させています。パッチ適用サイクルが始まる前に脆弱性が露呈する「マイナス1日」の時代に突入しました。攻撃者は機械のスピードで動きませんが、ほとんどのセキュリティワークフローは依然として人間のスピードで動いていません。本番環境での安全な検証と明確な証拠がなければ、発見事項は未解決のままとなり、議論は長引き、脆弱性のエクスポーチャー期間は長引くこととなります。

Agent Val 4.8

**Safe Exploit Validation with Proof**

Agent Val safely validates whether high-risk exposures are exploitable in production using attacker-technique testing. It removes theoretical risk, proves control effectiveness, and gives Security and IT Ops shared evidence to minimize change friction with suppressed noise, reduce cost and effort, and accelerate remediation in ETM.

**Core Skills**

- Exploit Validation
- Exposure Prioritization
- Security Control Verification
- Ransomware & KEV Validation
- Evidence-Based Risk Scoring

## 最も目立つアラートではなく、真の攻撃経路を把握しましょう。

Qualys Enterprise TruRisk Management (ETM) に組み込まれたエージェント型 AI オーケストレーションレイヤーである Agent Val は、TruConfirm の技術を基盤としており、悪用不可能な検出結果の 90% というノイズを抑制しながら、真の攻撃経路を特定します。Agent Val は、本番環境で実際の悪用可能性をテストし、確認されたリスクを優先順位付けし、緩和策をトリガーし、結果を再検証してリスク低減効果を証明します。

Qualys ETM は、理論的な脆弱性スコアを、AI 主導のエージェント型優先順位付け、エビデンスに基づいたエクスプロイト検証、および検証済みのリスク軽減に置き換えることで、このギャップを埋めます。ベンダーニュートラルなリスク基盤において、TruConfirm は Qualys およびサードパーティソースからのエクスポーチャーデータを統合し、安全で制御された手法を用いて、独立したエビデンスに基づいたエクスプロイト可能性の検証を提供します。

また、WAF、ファイアウォール、EDR など、エクスプロイトを阻止した要因も記録し、制御の有効性を証明します。

90%+

修復作業に伴うノイズの低減

70%

悪用可能な脆弱性が確認された場合の修復時間の短縮

1,600+

CVE をカバー。新たなセンサー設置は不要

### クローズドループ検証

悪用可能性、制御の有効性、および検証済みのリスク低減に関する証拠を提示し始める。

### 本番環境での脆弱性検証

どの攻撃経路が開いているか、どの経路がセキュリティ対策によってブロックされているか、そしてどの脆弱性の優先度を安全に下げられるかを確認できます。

### 運用上の摩擦を軽減

煩雑なバージョンベースのパッチ適用に関する議論やチケットの乱発を、証拠に基づいた的確な対策と再検証に置き換えます。

### 実際の脆弱性を検証する

Agent Val は、アセット全体にわたる脆弱性シグナルを分析し、攻撃者の関連性、ビジネスコンテキスト、および脆弱性に基づいて、最初に検証すべき項目を決定します。次に、TruConfirm を使用して、本番環境で脆弱性を安全にテストし、脆弱性への攻撃経路が開いているか、制御によってブロックされているか、または到達不可能であるかを確認します。

### 確認されたリスクの軽減

リスクが確認されると、ETM は当該リスクへの対応を修復キューの最上位に位置付け、パッチ適用が不可能な場合には、緩和策と隔離措置によってパッチ適用後の対応を強化します。これにより、対象を絞った緩和策によってリスクを迅速に軽減できます。

### リスク軽減の証明

多くのプログラムがここで失敗します。リスク軽減後、Agent Val は TruConfirm を使用して再度検証を実行します。セキュリティ責任者は、エクスプロイト経路が遮断され、制御が機能し、リスクが軽減されたことを確認できます。チームは真に重要なことに集中し、リスクが完全に解消されたことを証明できます。

30 日間のアーキテクチャレビューを予約して、自社環境における実際の攻撃経路を確認しましょう。対象はあなたの環境、あなたの制御システムです。

今すぐトライ